

最前線

従来のやり方を見直すことで、新しいビジネスの糸口が見えることもある。福井市のさく井、管更生・洗浄業のパイプ美人は長年使用された井戸の再生に目を付け、従来とは違う新しい工法で実績を上げていく。鈴木和男専務に話を聞いた。

「井戸を傷めたり、環境に悪い影響を与えたりする恐れのある在来工法では駄目だと、超高压水を回転噴射して洗浄する方法を考えた」。詰まったり、汚染が進んだ井戸を再生させるには、従来大きなやぐらを立て、ブラシや麻袋などで井戸の壁をこすったり薬剤を使う方法が主だった。同社が「ユニバーサル洗浄工法」と名付けた深井戸管内洗浄のやり方は、鈴木専務がかつて学んでいた福井工業大学や神戸市の財団法人新産業創造研究機構と連携して開発した。一九九九年に滋賀県の土木事務所から提供された、土砂が詰まって水が出なくなった消雪用井戸で実験、初めて効果を確認した。

また、同社では水中カメラを使って井戸の状況を映し出し洗浄施工前と施工後の効果を確かめている。「従来、井戸の洗

新洗浄法で井戸を再生



鈴木和男(すずき・かずお)さん 1971(昭和46)年、福井市生まれ。福井工業大学付属福井高校から同大学に進み卒業後、父が経営する住宅やビルなどの清掃会社P'Sハウスクリーン(現パイプ美人)に入社。2001年から専務を務める。

環境に優しく需要増も

パイプ美人 鈴木 和男専務

「井戸の施工実績を上げ、その揚水量復元率は98%と、在来工法に比べ高い復旧率を誇る。地下水を使って雪を溶かす融雪用の深井戸は北陸から近畿北部にかけ一万余戸。」「まだ、それほどこの工法を応用して温

泉用の深井戸を洗浄する実ではないが、自治体などにはアンケートしたら、8%程度がメンテナンスの必要性を認めている。」「西島良平」

浄、修繕業務は水量や水質の変化からしか、効果の確かめようがなかったが、はつきり目で確認できるようにしたかった」

今年四月までに百八十本の本の井戸の施工実績を上げ、その揚水量復元率は98%と、在来工法に比べ高い復旧率を誇る。地下水を使って雪を溶かす融雪用の深井戸は北陸から近畿北部にかけ一万余戸。」「まだ、それほどこの工法を応用して温

「工事が主体の井戸屋さんには詰まると新しく掘らして周りに迷惑をかけたり、薬剤で環境に影響を与えたりせず、従来工法で井戸の安心、安全を守っていきたい」と高く評価された。

「工事で土砂をまき散らして周りに迷惑をかけたり、薬剤で環境に影響を与えたりせず、従来工法で井戸の安心、安全を守っていきたい」と高く評価された。

平成18年5月14日(日)掲載